

山東井家完

卷之三

（左等区川端三条上）  
法林寺竹前町

↑  
一休寺 (2000年1月調査文書)  
他に墨書き  
10

參考拙稿

「京鏡世綱絵」——井上次郎右衛門家を中心にして——【『神女大図文』十号】一九九九年三月)

一九九九年十四期(中)——田中任司著《日本政治的再構築》

「旅館の場——京極由林著古賀間家と田舎・山溪」(『桂文士』)

『明治初年の謡書——林喜右衛門玄忠自叙談記』(明治三十一年) (明治三十一年)

〔「京極莊蔵久右衛門家門人帳 簡題と翻刻 附索引」(『神女大圖文』十八号 一九〇七年三月)

6. [京瀬世井上次郎右衛門家門人帳] 解題と翻刻 附索引」(『山手日文論叢』二十六号 1900年2月)

〔京觀世井上次郎右衛門家門人帳（田中家引繼分）〕解題と繩刻  
附索引（『神女大園文』十九号 1100

「京錦井賀井家の昭和本拠邸——井戸十郎右衛門家正蔵文庫から——」(『絵と點描』大号) 10

「藍の魔女」(『新日本女子大學生』) 1910年(明治43年)1月号

10 京綾子『心がくねる』解題と翻訳（『君の女子大学文学部黙想』45巻、2012年3月）

11『志田政々城』著者と翻訳『岩女大國丸』24号(2013年3月)

12 「長崎市立那珂大中学校改修工事実績レポート」(「取手通」長崎県那珂市、2013年10月)

京都市立芸術大学新収岩井家文書について

ある。この方こそが、野々村氏に書翰を送られた旧姓加藤弘氏であつた。

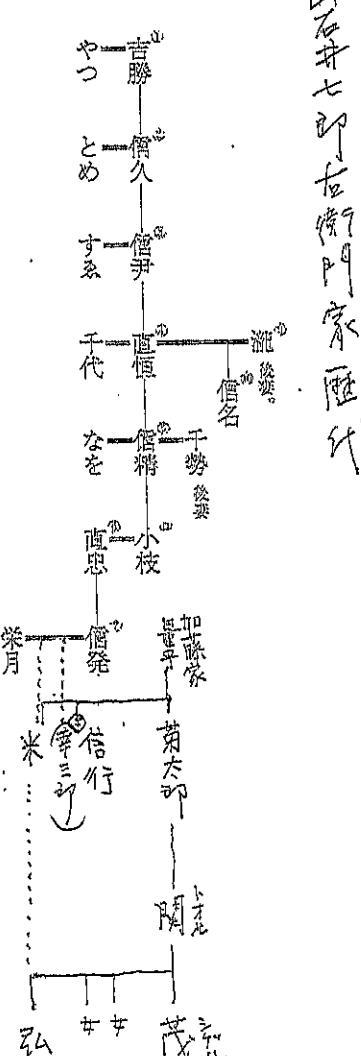
大谷節子

岩井七郎右衛門家は、江戸中期の岩井直恒（享和二年没）を生んだ京観世五軒家の「」であるが、野々村戒三氏が「近代能楽史話① 京観世覚書」（『観世』一九五六年七月号）を記された時点では、直恒は「有恒」と誤読され、「岩井の歷代の中では、謡の実技や理論に特に精通していた人だらうと思ふ」と記されるに留まっていた。しかし、一九六七年に木耳社から刊行された「能の今昔」に再録された野々村氏の論考を読まれた加藤弘氏は、野々村氏に書翰を送られ、これによりて岩井家最後の当主信次が亡くなる前後のこと事が明らかになった。その経緯は、同じく野々村戒三氏の「京観世五軒家の内岩井家の後裔」（『観世』一九六七年十月号）に記されている。

加藤家は最後の岩井家当主信久の実家である。信久の先代、七代信発には妻子がなく、信発は漢方医であつた加藤量平の次男、幸三郎を養子として迎える。信發没後、幸三郎は岩井家の筆頭弟子であつた大西家を後見として八代目を継ぐが、明治二十二年二十五歳で早世する。これによつて京觀世の岩井家は絶えるが、その後、信発の妻栄月は、幸三郎の実家である加藤家より幸三郎の妹米子（昭和十六年没）を養女として迎えた。その頃、岩井家と加藤家とは同じく新町姉小路の家に住む間柄であった由である。弘氏は、幸三郎と米子の実兄である菊太郎（加藤量平長男）の孫にあたる方である。岩井家の養女となつた米子が、菊太郎の長男、鴎（米子には甥にあたる）を育てた縁によりて、米子は鴎の次男である弘氏に、岩井家に残されていた資料類を託しておられたのであつた。

主催側も予期せぬサプライズの一〇一一年一月五日以後、同大學音楽学の藤田隆則氏を中心とした大西家文書調査が行われ、この度、「老陽之抄子秘訣」を含む資料の一端が同大學日本伝統音楽研究センターに寄贈される運びとなつたことは慶賀に堪えない。これを機に、音楽学の方面からも京觀世の研究が一層進められていくことを期待したい。（日刊アート2001.1.10）

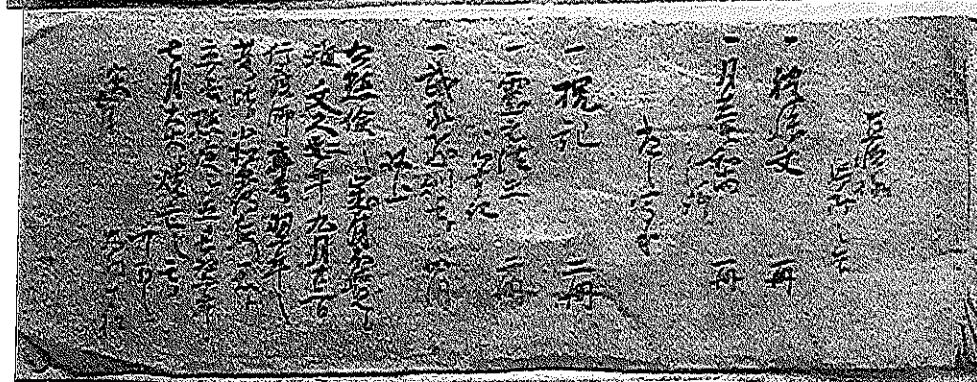
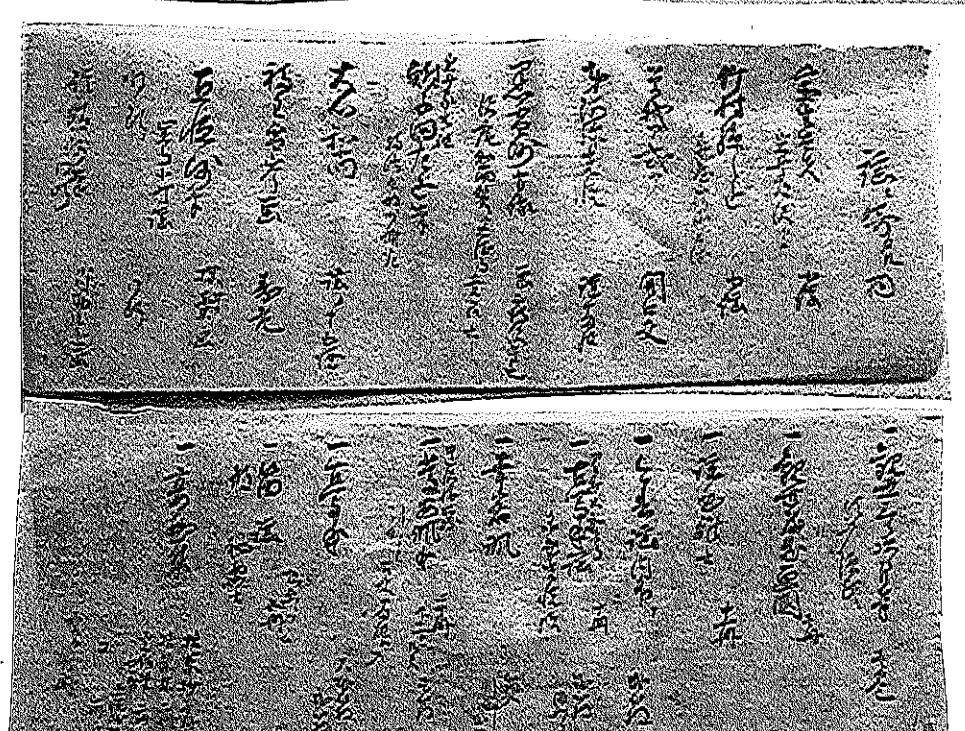
☆。(岩井家所藏目録) 仮綴一冊。  
「堂上方御筆」の内、岩井道順の祝儀や一周忌に姉小路殿、石山殿からの拝領品。「観井  
様」の内、黒雪、重成、元章筆譜一紙、一行物。「譜三寄タル物」の内、黒雪筆譜（泥  
庵和尚贊）、直恒筆闕寺小町譜（探索画）、禁中御能之図。「普通の物」の内、岩井系図一  
巻。「茶事道具類」の内、小澤蘆庵歌。「長持二入レ秘シ置物」の内、黒雪筆闕寺譜、同  
筆繪垣譜、明和改正独吟本丸用、写本一冊、鳥丸光広卿小譜一冊（極札添）、冷泉家「三  
本小町」一冊、石田松雪筆「源氏供養」「闕寺小町」各一冊。「天之箱之内」道修様闕筆  
一、新改正又キカキ一、秘書十四冊、老陽巻物。「地之箱」の内、秘書二十九冊。「玄之  
箱」の内、直恒闇書 紙文庫入数四十七入、花伝書八冊、副言書五冊、太鼓頭附一冊、卯  
月本百冊、明和改正毫箱、譜抄十冊、寛永卯月本箱入、能訓蒙図彙一冊、道成寺形写しが  
け壱ぐくり、直恒覺書四冊、鏡世面作附、道修筆小譜、直恒筆能名寄、驚流狂言方衣裝附  
一冊、同流狂言名寄一冊、狂言セリフ、間之本三冊、道修様闇書一文庫、笛相伝一巻、譜  
道秘書（当流らん曲目錄）二冊、慶長已來番組帳七冊、宗巴自筆独吟一冊、鏡世三郎次郎  
自筆須磨源氏一巻、鏡世屋敷画図一冊、幸若諷箱入、道修様所持慶安謡本二十冊、宴曲集  
一冊、歌物語一冊、鞠之著物一冊。「直恒様御自筆物」の内、清輔尚齒会歌一冊、天明出火記  
末尾に「右点檢之歳月不覚と雖、文久二年九月廿一日、信発師卒去。翌年之夏比力小松原  
伝右衛門君ト□□点檢シ置。其翌年七月大火ニ焼亡之モノ可有之。」寅五月 大西寸松



山右七部古文家歷代

日本伝統音楽研究センターが創立百三十周年記念の公演講座「京観世の伝統——記録と記憶から語りたるもの」を主催された折、初回の講演「京観世の歴史」を勤めた後の思いがけぬ出会いは、忘れ難いものであつた。同大学名誉教授（日本画）の若井弘氏が、岩井家の後裔にあたる旨を名乗り出て下さったので

①初代。正山道順居士。元禄七年三月四日没。七十二歳。  
②二代。板三郎右衛門ノ子。吉勝齋子。德雅宗雅督士。享保十四年五月十八日没。六十歳。  
③三代。守庵茂右衛門ノ子。信久養子。尊庵道修居士。嘉慶六年三月七日没。六十六歳。  
④四代。道修ノ子。幼名新之丞、又貞之丞、後忠助。繼綱道順居士。享和二年七月二十九日没。  
⑤五代。幼名新之丞。直忠養父後、助助。勘鏡信輔居士。文政十三年正月十一日没。七十八歳。  
⑥六代。善部四郎兵衛ノ子。信輔養子。乾飯直忠居士。文政八年五月十九日没。三十歳。  
⑦七代。直忠末弟。儀鏡信登居士。文久二年九月二十一日没。四十六歳。  
⑧八代。加藤量平ノ次男。儀鏡達居士。明治二十一年六月二十一日没。二十五歳。  
⑨子代ノ妹。日光鏡實壽居女。天明二年九月二十四日没。四十四歳。  
⑩道順(直忠)二男。幼名龜代治、後貞之丞、又三郎右衛門。  
⑪信輔娘。安政六年九月十三日没。五十八歳。



☆・(岩井家所蔵目録)仮綴一冊  
「堂上方御筆」の内、岩井道應  
家の文、墨書き、重成、元章等

